



「大学生の就職活動とキャリア展望」
- 大学調査・学生調査から -

労働政策研究・研修機構
研究員 堀 有喜衣

大学就職部・キャリアセンター調査



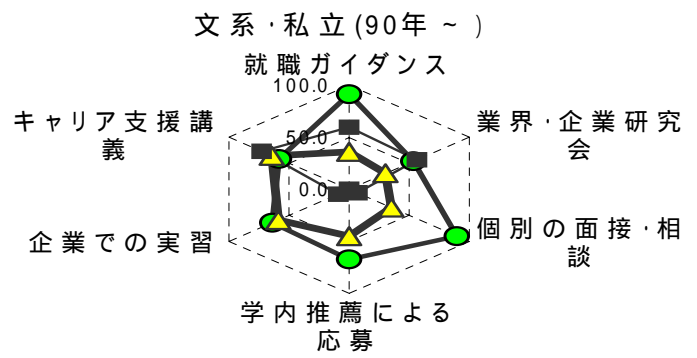
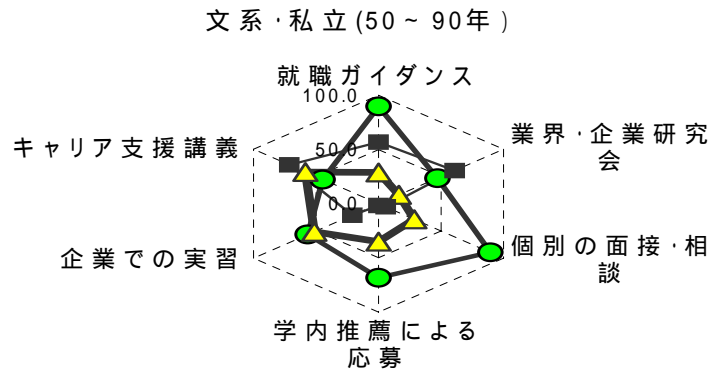
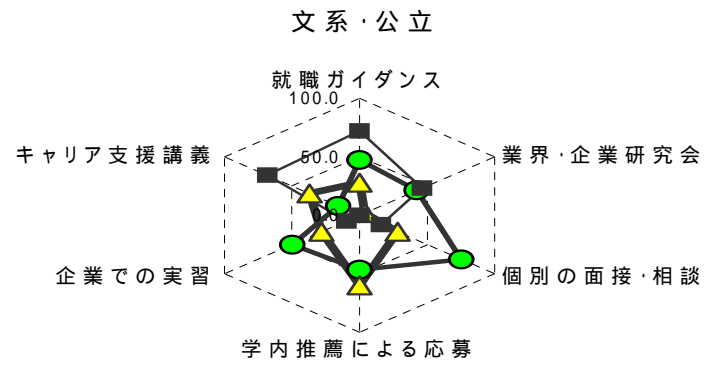
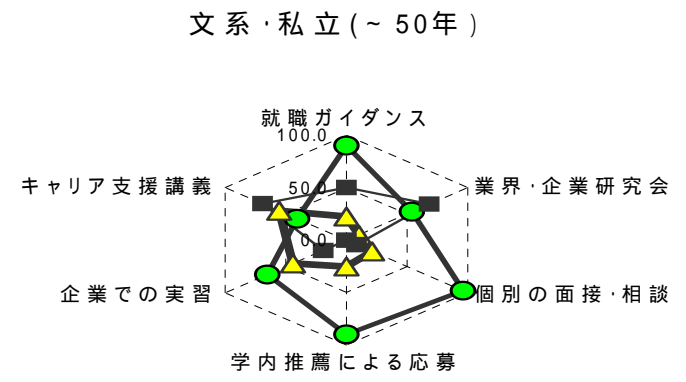
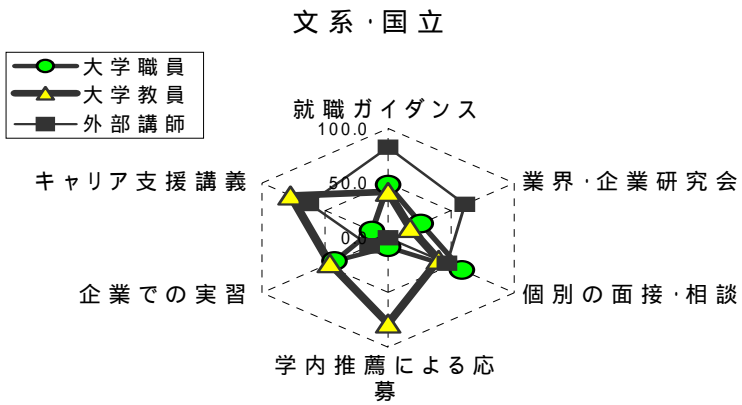
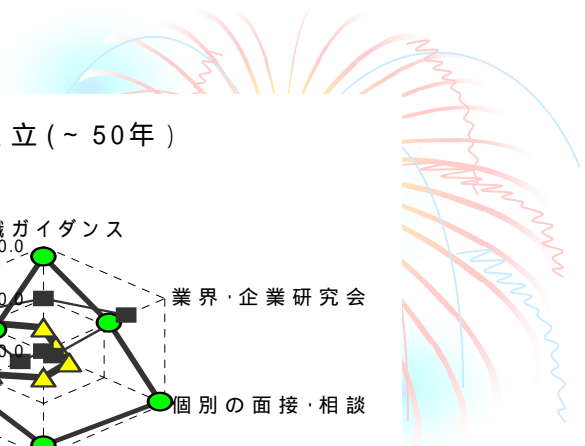
- 調査対象：全国の4年制大学(医学・看護学・宗教学の単科大学を除く)で、平成16年度に卒業生を出している全ての大学(617校)の就職部・キャリアセンター。
- 調査方法：郵送調査
- 実施時期：2005年7月～8月
- 回収票数：510票(回収率82.7%)

組織の特徴(設置者別)

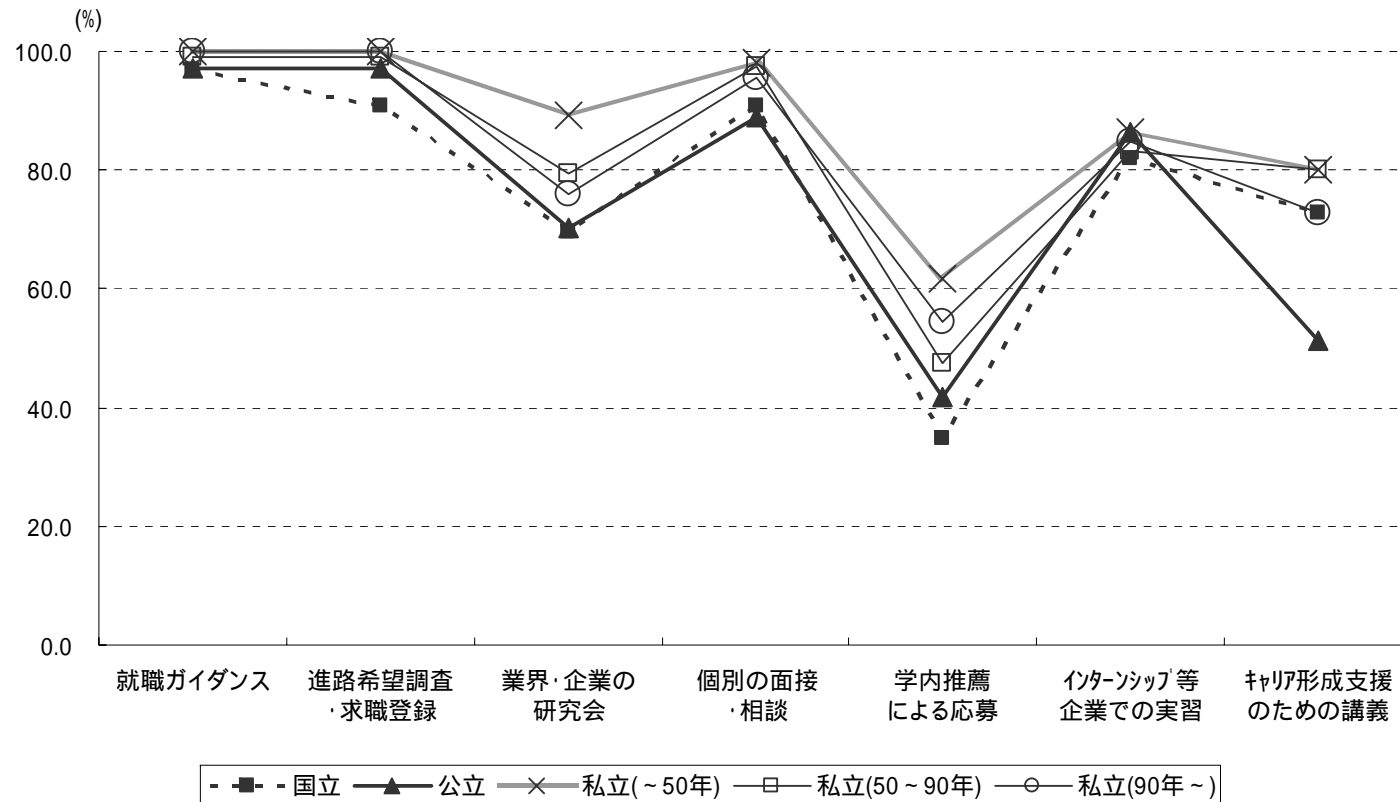
		合計	国立	公立	私立 (～50年)	私立 (50～90年)	私立 (90年～)
就職部などの事務組織の有無	ない	1.0	1.3	8.5	0.0	0.0	0.0
	ある	98.6	98.7	91.5	100.0	100.0	99.0
	無回答	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
担当者の人数(卒業生100人あたり)	専任職員(人)	1.0	0.4	0.5	0.7	1.0	1.9
	兼任職員(人)	0.3	0.1	0.6	0.2	0.2	0.3
	担当教員(人)	0.6	0.4	0.4	0.3	0.6	1.3
	常勤職員(人)	1.0	0.4	0.8	0.7	1.0	1.8
就職指導・キャリア形成支援における意思決定	学長・理事長・理事会主導	6.3	8.0	2.1	4.6	8.6	5.7
	教授会(教員)主導	13.3	12.0	12.8	11.5	15.9	13.3
	就職担当事務部門(職員)主導	46.1	22.7	46.8	56.2	46.4	49.5
	その他	32.2	57.3	29.8	24.6	28.5	30.5
	無回答	2.2	0.0	8.5	3.1	0.7	1.0
就職指導・キャリア形成支援の年間予算(卒業生100人あたり)	経費(万円)	221.9	58.5	163.7	194.9	258.7	368.8
就職指導担当職員の異動	1～2年くらい	5.1	10.7	19.1	0.0	4.0	2.9
	3～5年くらい	58.6	82.7	74.5	53.8	57.6	41.9
	ある程度詳しい職員が長期間にわたって担当する	33.5	5.3	2.1	44.6	36.4	50.5
	無回答	2.7	1.3	4.3	1.5	2.0	4.8
専門性を身に付ける機会	提供していない	74.7	89.3	89.4	66.9	70.9	73.3
	提供している	24.7	10.7	10.6	33.1	28.5	25.7
	無回答	0.6	0.0	0.0	0.0	0.7	1.0
専門性を配慮した人事異動	はい	28.2	12.0	6.4	30.8	31.8	41.9
	いいえ	69.6	85.3	91.5	66.2	68.2	55.2
	無回答	2.2	2.7	2.1	3.1	0.0	2.9

組織の特徴(大学規模別)

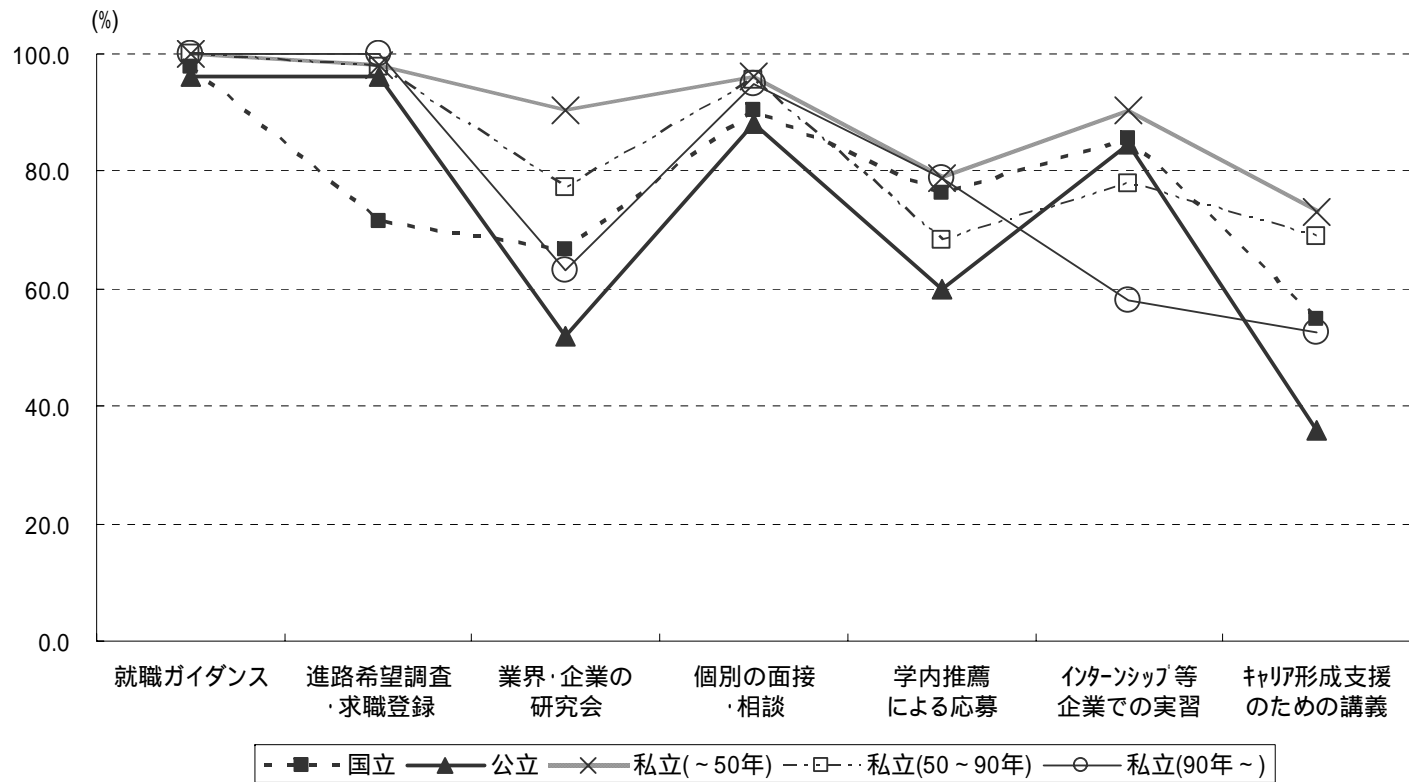
	合計	200人未満	200～499人	500～999人	1000～1999人	2000人以上
N	494	100	151	109	87	47
担当者の人数(卒業生100人あたり)						
専任職員(人)	1.0	1.9	1.1	0.7	0.5	0.4
兼任職員(人)	0.3	0.7	0.2	0.1	0.1	0.0
担当教員(人)	0.6	1.6	0.6	0.3	0.1	0.1
常勤職員(人)	1.0	2.1	1.0	0.6	0.4	0.3
就職指導・キャリア形成支援に関する意思決定						
学長・理事長・理事会主導	6.5	7.0	6.6	4.6	8.0	6.4
教授会(教員)主導	13.4	22.0	14.6	11.0	8.0	6.4
就職担当事務部門(職員)主導	46.2	41.0	47.0	51.4	44.8	44.7
その他	32.2	27.0	29.8	33.0	37.9	38.3
無回答	1.8	3.0	2.0	0.0	1.1	4.3
就職指導・キャリア形成支援の年間予算(卒業生100人あたり)	221.9	331.5	230.5	206.8	153.8	113.2
就職指導等担当職員の異動						
1～2年くらい	5.3	7.0	6.0	5.5	3.4	2.1
3～5年くらい	59.5	44.0	62.3	59.6	70.1	63.8
ある程度詳しい職員が長期にわたって担当する	32.8	45.0	28.5	34.9	25.3	29.8
無回答	2.4	4.0	3.3	0.0	1.1	4.3
専門性を身に付ける機会						
提供していない	74.7	77.0	79.5	70.6	73.6	66.0
提供している	25.1	23.0	20.5	28.4	26.4	34.0
無回答	0.2	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0
専門性を配慮した人事異動の有無						
はい	28.5	40.0	25.8	30.3	24.1	17.0
いいえ	69.6	58.0	72.2	68.8	74.7	78.7
無回答	1.8	2.0	2.0	0.9	1.1	4.3



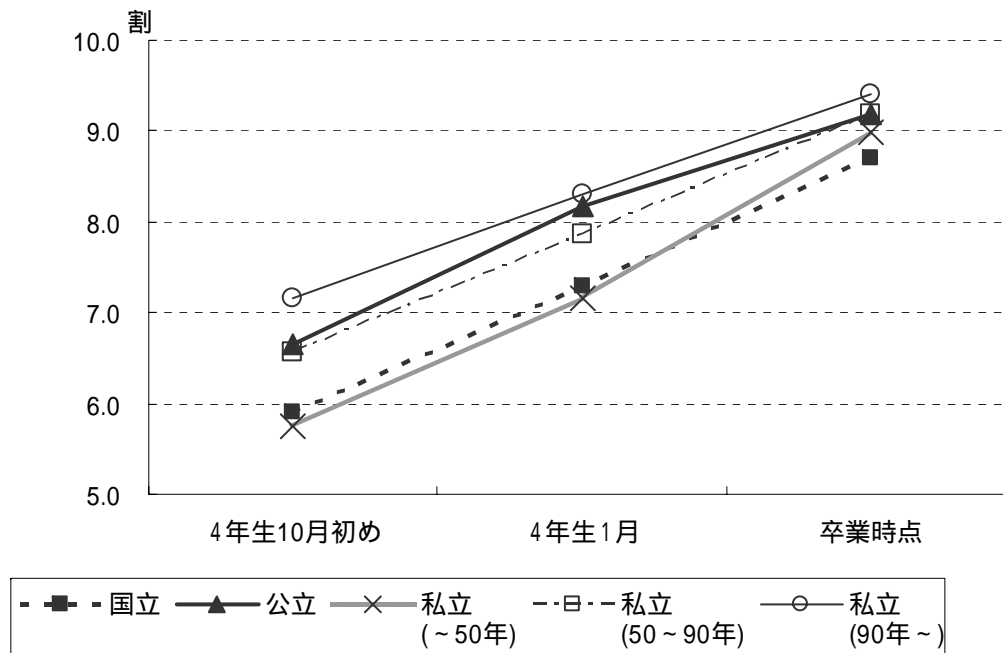
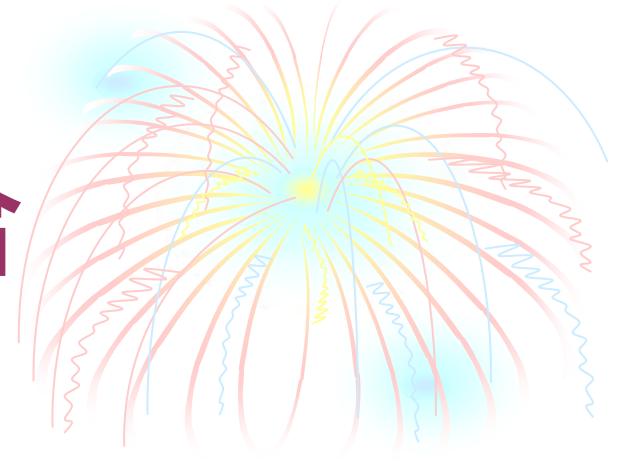
就職指導・キャリア形成支援実施の有無 (設置者別)(文系)



就職指導・キャリア形成支援実施の有無 (設置者別)(理系)



進路未定者の把握割合



就職指導・キャリア形成支援を実施している 担当者



- 国立は、外部講師と教員が中心になっている。
- 私立(～50年)は、教員の関与が少ない。
- 私立(90年～)は、教員の関与が大きい。

学生の就職活動についての問題点 (自由記述)



インターネットに頼り、自ら行動しない
(132校)

インターネット情報の信頼性に問題
学生の選択力との関係で問題(47校)

インターネットの経由の求人情報しかみえ
ない(15校)

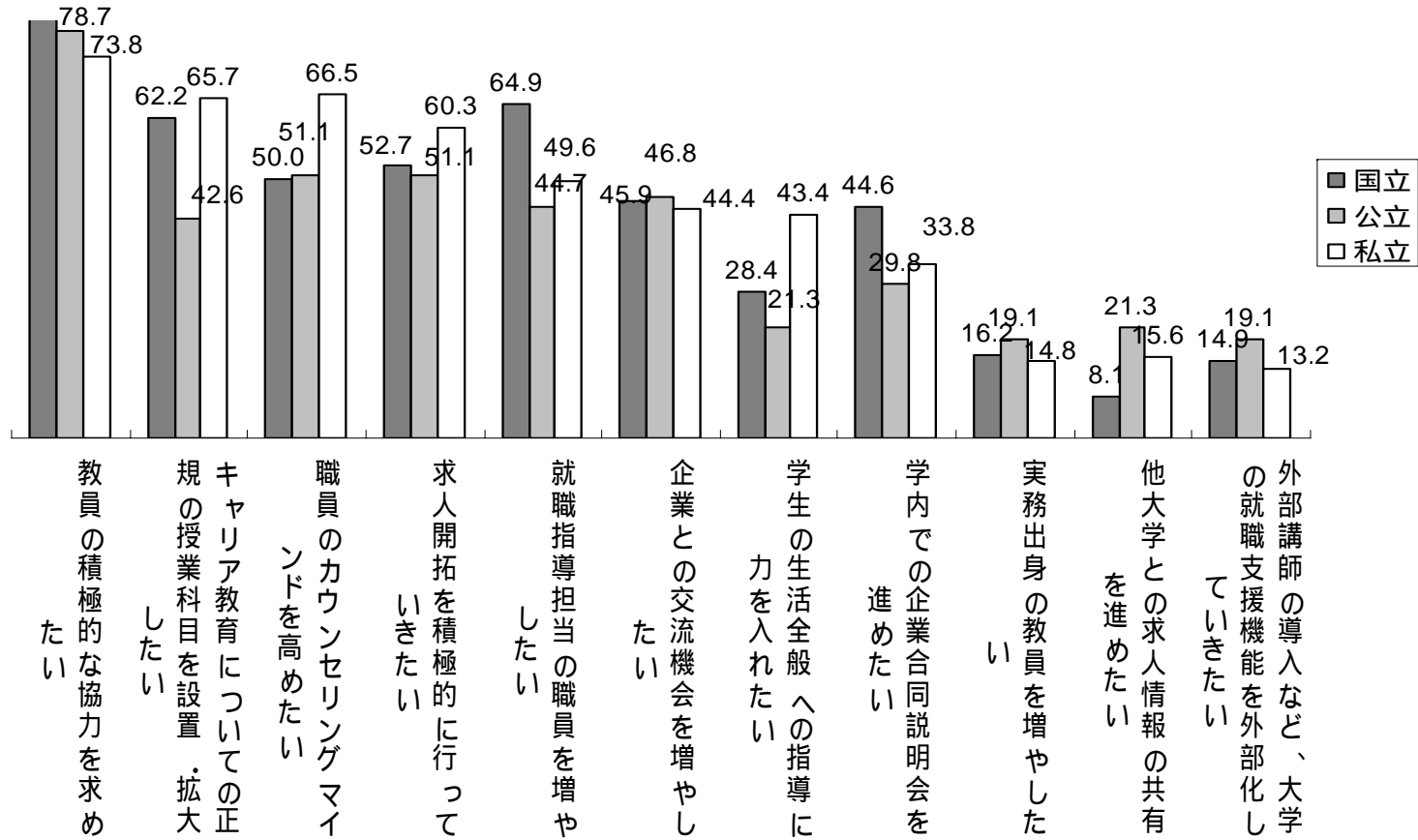
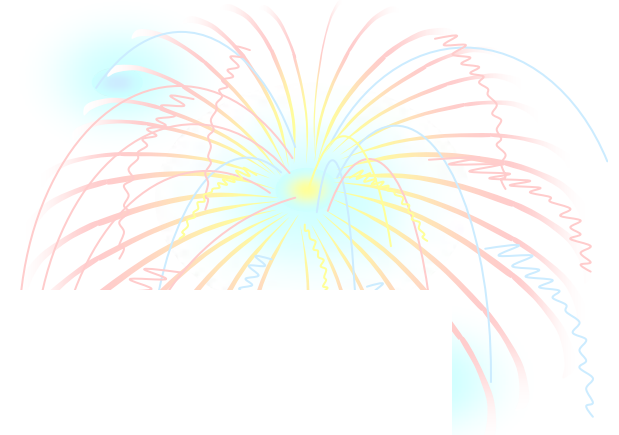
公平さなどのプラス面あり(43校)

企業の採用活動の問題点



- 内々定の学生に対する拘束の問題(43校)
- 採用活動の早期化・学事日程への支障(130校)
- 倫理憲章の一定の意義を認めるが、短期集中化などの問題あり(15校)
- 倫理憲章の効力がない、現状の採用活動スケジュールに対する不満など(113校)

今後の展開

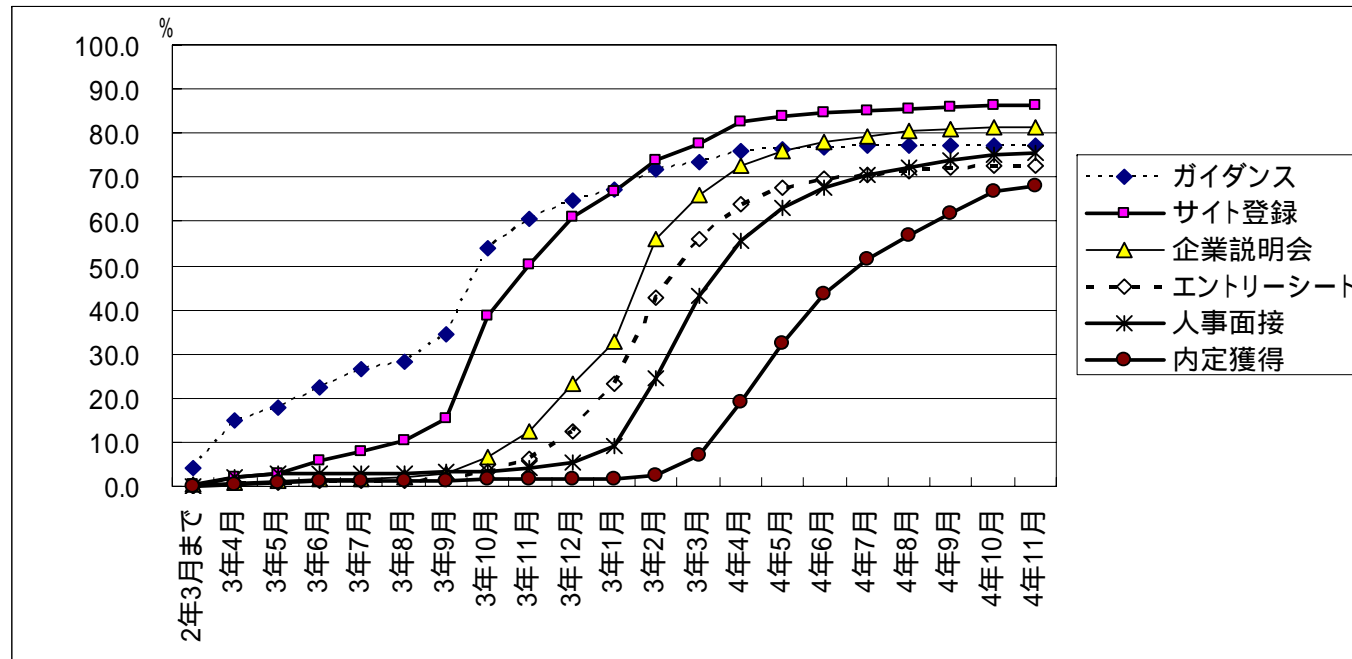
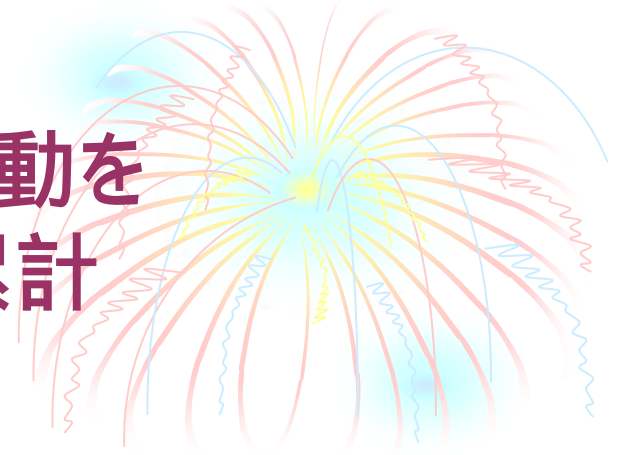


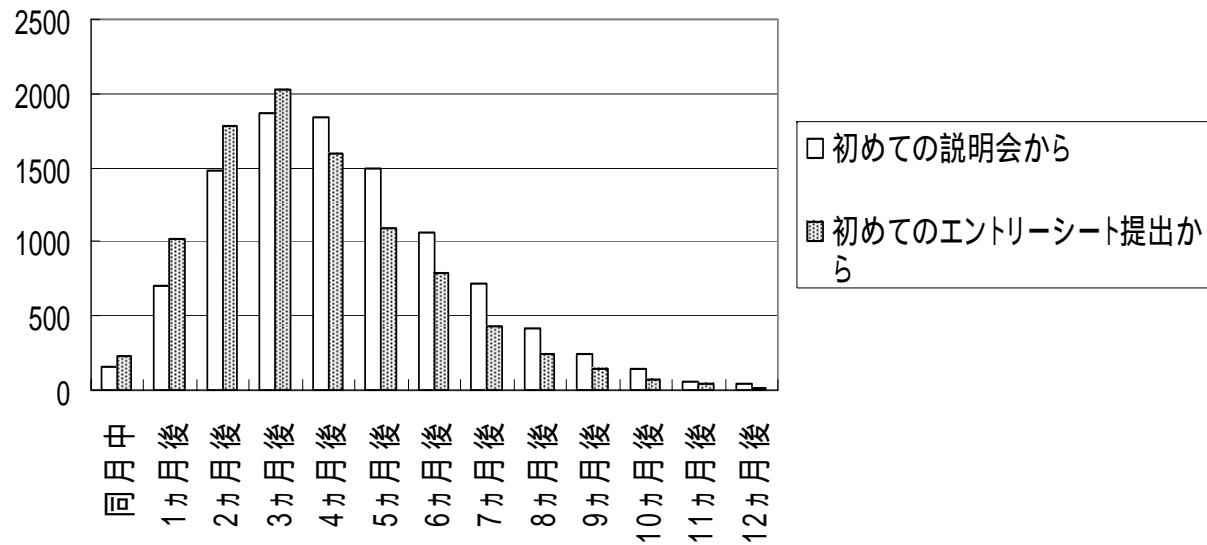
大学生の就職について



- 2005年10月～11月にかけて、労働政策研究・研修機構に設置された「大卒就職研究会」が、全国の4年制大学(医学・看護学・宗教学の単科大学を除く)のうち、協力を得られた276校の4年生(医学部、歯学部、看護学部部の学生を除く)を対象に実施した。
- 有効回収票数は18,509票、その内訳：
web調査以外 = 16,486票、回収率33.6%、web調査 = 2,023票(38校)。

就職準備のための諸活動を 初めて行った時期の累計





2ヶ月から5ヶ月

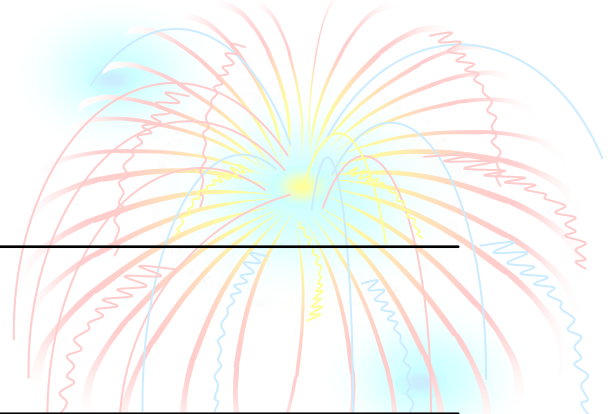
	単位:月	
	初めての説明会から	初めてのエントリーシート提出から
全体平均	4.2	3.6

注;それぞれ上下5%を除く平均値。

就職活動で大変だったこと (自由記述から)

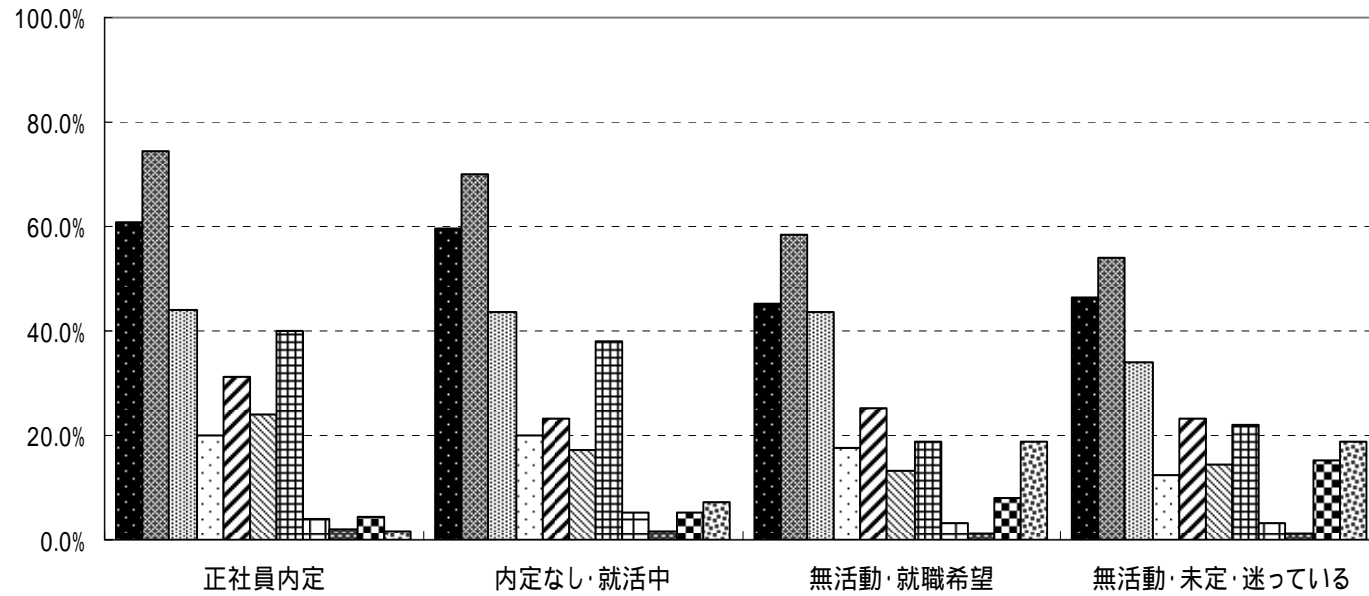
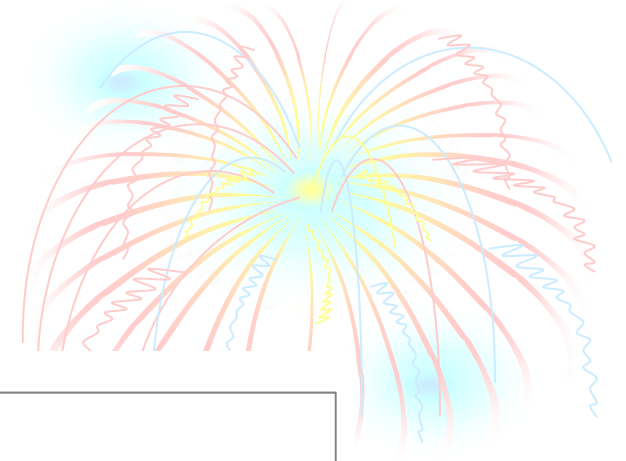
- 「就職活動にかかるお金。全額自己負担なのが辛い。お金がないと活動できず、身動き出来ないときがある。」
- 「精神的に辛い日々があった。」
- 「面接時に、緊張しすぎて、自分の本当に思っている事を、うまく伝えることができなかった」
- 「スケジュール調整が大変でした。行きたいところの日程がかなり重なったりして難しかったです。」

情報はどこから？



	正社員内定	内定なし・ 就活中	無活動・就 職希望	無活動・未 定・迷って いる
就職情報誌	2.4	4.4	7.1	7.0
就職支援ウェブサイト	46.5	34.6	46.2	43.2
会社説明会やセミナーなど	22.1	12.9	13.3	11.9
大学の就職関連行事・授業	3.4	5.2	3.1	4.3
大学の就職部 / キャリアセンター	11.2	22.1	6.7	4.9
大学の先生	3.7	4.6	2.2	1.6
インターンシップ	1.0	0.7	2.2	0.5
OB・OG訪問	2.4	1.3	2.7	2.2
公的な就職支援機関	1.1	4.1	2.2	1.6
家族・親族・保護者	2.4	2.3	3.1	4.3
友人	3.0	3.7	3.6	7.6
その他	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.7	4.2	7.6	10.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

相談は誰に？



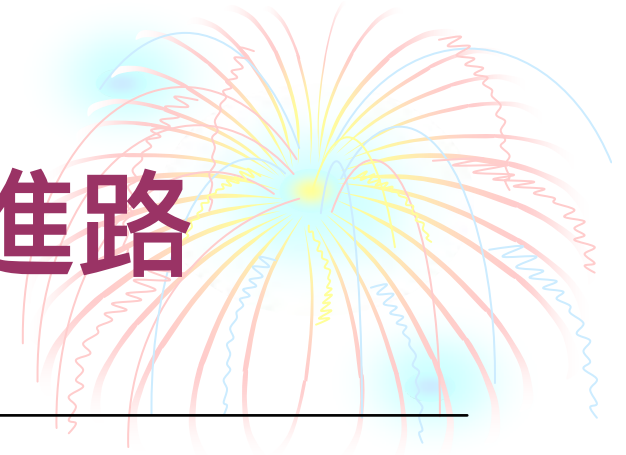
- | | |
|-------------------|--------------|
| ■ 親などの保護者 | ■ 大学内の友だち |
| ■ 大学外の友だち | □ きょうだい |
| ■ 恋人 | ■ 先輩 |
| ■ 大学の先生・職員・カウンセラー | □ 公的な就職支援機関 |
| ■ その他(バイト先・社会人等) | ■ 誰にも相談しなかった |
| ■ 無回答 | |

相談相手をタイプわけしてみると



- 孤立型「誰にも相談しなかった」
- 家族中心型「親などの保護者・兄弟」
- 大学中心型「先輩・大学の先生・職員・カウンセラー」
- 友達中心型「大学内の友だち・大学外の友だち・恋人」
- 公的機関中心型「公的な就職支援機関」
- その他

相談相手タイプと進路



	正社員 内定	内定なし・就 活中	無活 動・就 職希望	無活 動・未 定・ 迷って いる	合計	N
孤立型	71.1	21.9	2.8	4.3	100.0	654
家族中心型	72.3	23.8	2.0	1.8	100.0	488
大学中心型	78.8	18.2	1.8	1.2	100.0	742
友達中心型	78.5	18.9	1.5	1.1	100.0	10063
公的機関中心型	71.8	25.7	1.3	1.1	100.0	522
その他	89.3	9.3	1.3	0.0	100.0	75

成績(優の割合)と進路

(以下無回答省略)

	正社員内定	公務教員内定	契約派遣・非常勤	他内定有	内定なし・就活中	無活動・大学院希望	留学・専門学等希望
男性計	60.2	3.2	2.4	1.3	10.8	12.2	1.1
～ 2割	59.9	1.8	2.9	1.5	11.2	5.5	1.5
～ 4割	63.2	2.7	2.4	1.4	12.0	9.3	1.0
～ 6割	59.1	3.3	2.5	1.1	10.9	14.6	1.1
～ 8割	58.1	4.9	1.8	1.3	8.8	17.6	0.8
～ 10割	52.5	5.3	2.1	0.7	8.8	21.8	1.1
女性計	52.1	3.3	4.3	2.0	17.6	6.8	1.8
～ 2割	49.7	0.9	5.4	2.3	16.6	3.6	2.5
～ 4割	55.4	1.8	4.1	1.9	16.8	4.5	1.7
～ 6割	51.8	2.3	3.6	2.5	18.7	6.8	2.1
～ 8割	51.5	4.1	4.6	1.7	18.0	7.3	1.7
～ 10割	50.5	5.8	4.1	2.2	15.4	10.3	1.4
	無活動・公務教員希望	無活動・就職希望	資格試験準備	無活動・未定・迷っている	その他・不明	計	N
男性計	2.3	1.6	0.3	1.9	2.7	100.0	8488
～ 2割	2.2	2.8	0.2	3.3	7.2	100.0	1337
～ 4割	1.9	1.8	0.2	1.8	2.2	100.0	2912
～ 6割	2.4	1.4	0.3	1.5	1.8	100.0	2205
～ 8割	2.9	1.0	0.2	1.3	1.4	100.0	1750
～ 10割	2.8	0.4	0.7	2.1	1.8	100.0	284
女性計	3.5	3.4	0.6	2.6	2.0	100.0	9409
～ 2割	2.5	5.5	1.1	5.5	4.3	100.0	559
～ 4割	3.0	4.2	1.0	3.1	2.5	100.0	1629
～ 6割	3.3	3.8	0.7	2.3	2.1	100.0	2303
～ 8割	4.3	2.8	0.4	2.2	1.5	100.0	3855
～ 10割	2.7	2.5	0.4	2.5	2.0	100.0	1063

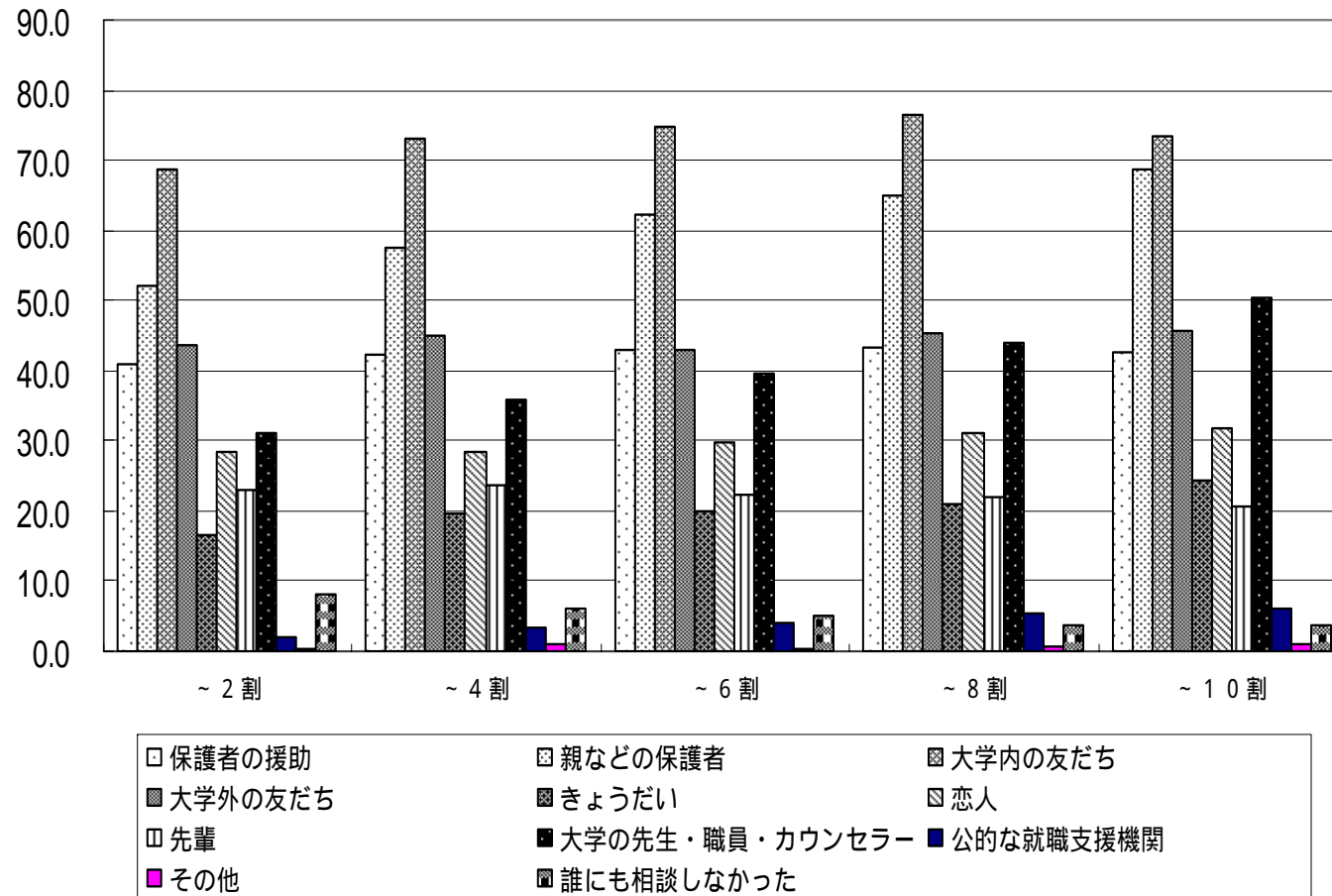
成績(優の割合)と就職

(正社員内定者、内定なし・就活中、無活動・就職希望、無活動・未定・迷っている、者を対象とした場合)



就職内定率	
男性計	80.8
～ 2割	77.6
～ 4割	80.2
～ 6割	81.0
～ 8割	84.0
～ 10割	82.3
女性計	68.8
～ 2割	64.2
～ 4割	69.7
～ 6割	67.6
～ 8割	69.2
～ 10割	71.1

成績(優の割合)と相談相手



大学が向かう方向とは



- 就職における大学の役割はますます重要性を増しているが、特に大学サイドでは教員の関わりを強めようとする志向が見られる。
- 学生の就職という観点から見ても、大学の関わり方(相談や成績)によって、学生の進路に違いがみられる。
- ただし、大学への関わりが低い学生をいかに取り込んでいけるのかについては、まだ課題が残されている。